

感雑向綿

日野町長 藤澤直広

2月7日は、

蒲生氏郷公の命日です。毎年、菩提寺の京都大徳寺黄梅院や村井の信楽院で法要が行われます。2月6日

の夜、京都市内で松阪市長、会津若松市長と各市町の蒲生氏郷公顕彰会の皆さんと交流しました。「蒲生氏郷を大河ドラマに」などと大いに意気投合しました。会津の顕彰会長さんは酒造業をされていて、「氏郷公」と銘うった大吟醸をふるまってくれました。そして、会津の酒は日野がルーツ、日野の米で造りたいと話されました。米生産農家の方やJAなどに相談したいと思います。

また、会津若松市の部長さんは、東日本大震災時に日野から救援物資を届けたときの写真を大切に携帯電話に保存されており、見せてくださいました。LPガス協会が設置された仮設風呂についても感謝の気持ち強く示されました。日野、松阪、会津の交流が深まることはありがたいことです。さて、3・11から3年になりま

す。被災地は、まだまだ大変な状況が続いています。特に、福島原発を巡る状況は深刻です。いまだに破損した原子炉からの核燃料の取り出しなどの目途がたらず、汚染水漏れなど新たな放射能漏れも相次いでいます。もともと、使用済み核燃料の処理技術が確立されていないままの稼働は「核のゴミ」を増やし続けるだけです。また、原発の過酷事故が生じた場合、放射能漏れいまで90分程度といわれ、その間に要援護者を含む周辺住民の避難は極めて困難です。にもかかわらず再稼働ありきの議論が行われています。人間の「技術」は、放射能をはじめ自然のすべてをコントロールできるものではありません。謙虚に向きあうことこそ必要だと思っています。

日野町では、現在、地域防災計画の見直しに取り組んでいます。原子力災害対策編も新たに追加します。また、役場庁舎の耐震改修や情報機能の強化などの工事が完了します。役場庁舎を防災の拠点として、しっかりと役割を果たし町民の皆さんとともに安全・安心のまちづくりを進めたいと思います。

男女共同参画意識はかわる、かえられる③



イラスト：タカノキョウコ

「日野町男女共同参画社会づくりに関する町民意識調査」の結果をシリーズでご紹介してきましたが、今回で最終回となります。

■心がけたいこと

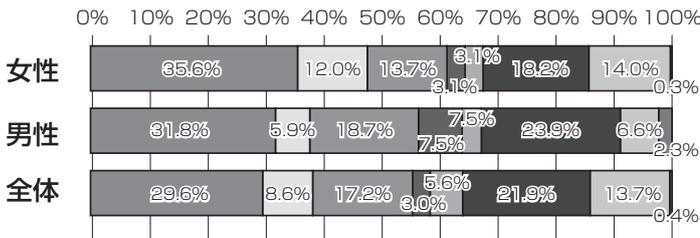
「男女が共に協力していくために、あなた自身はどのようなことに心がけたいと思いますか」と、おたずねしました。

「固定的な役割分担意識にこだわらない」と考える人が全体でも男女別でも最も多い傾向でした。女性の回答では「男は仕事、女は家庭」という固定的な役割分担意識にこだわら

ない」35.6%、「家事や身の回りの事はひととおりできるようにする」18.2%、「子どものしつけに男女差をつけない」14.0%となっています。男性の回答では「男は仕事、女は家庭」という固定的な役割分担意識にこだわらない」31.8%、「家事や身の回りの事は、ひととおりできるようにする」23.9%、「仕事にかかりきりにならない」、家庭や地域で過ごす時間を確保する「18.7%の順となっています。調査結果は、町のホームページに掲載していますのでご覧ください。

【男女が共に協力していくために、心がけたいこと】

平成 24 年度



- 「男は仕事、女は家庭」という固定的な役割分担意識にこだわらない
- 経済的に自立する
- 仕事にかかりきりにならず、家庭や地域で過ごす時間を確保する
- 休暇を利用して、育児や介護をする
- 家事・育児・介護に関する知識、技術の学習会に参加する
- 家事や身の回りの事は、ひととおりできるようにする
- 子どものしつけに男女差をつけない
- その他

※グラフの数値は端数処理の関係上、100%にならない場合もあります。

◆問い合わせ先 企画振興課 企画人権担当 ☎6552